

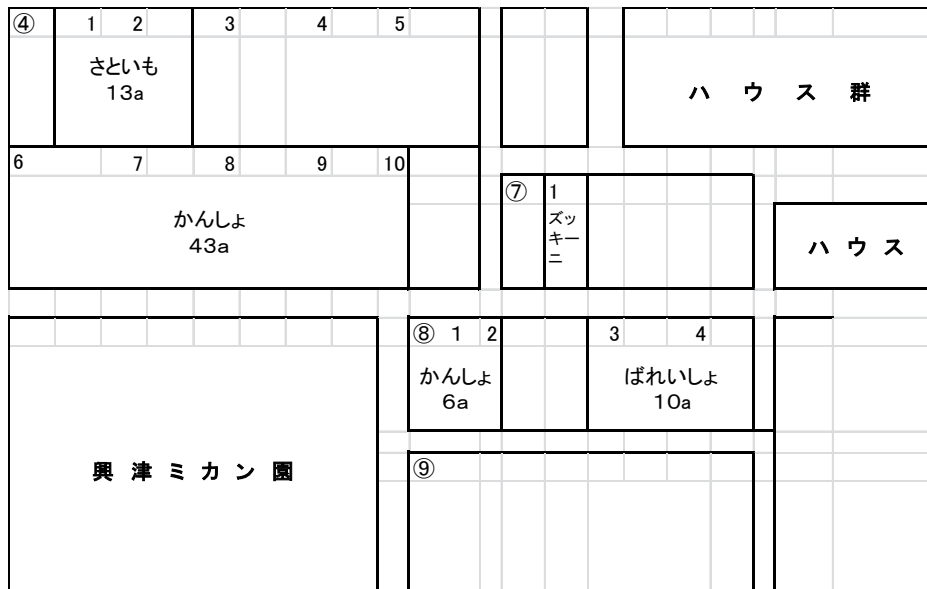
宮崎大学農学部
フィールド科学教育研究センター
平成26年度

管理運営実績

第4表. 病害虫防除暦

年 月	ばれいしょ	かんしょ	ズッキーニ	さといも
2014年	アディオソ乳剤	ネマトリンエース粒剤	粘着くん液剤	ネマトリンエース粒剤
4月	ランマンフロアブル フォリオゴールド	アクタラ粒剤 粘着くん液剤	ベストガード粒剤	
5月		ネマトリンエース粒剤 アクタラ粒剤		
6月	バスタ液剤			
7月				フェロディンSL プレオフロアブル アプローチBI
9月		エンセダン乳剤		プレオフロアブル アプローチBI
10月		エンセダン乳剤		
2015年	ネマトリンエース粒剤	ネマトリンエース粒剤		
1月	アクタラ粒剤			
3月		ダントツ粒剤 粘着くん液剤		

第5表. 作付圃場図



水田係

早期水稲（コシヒカリ）

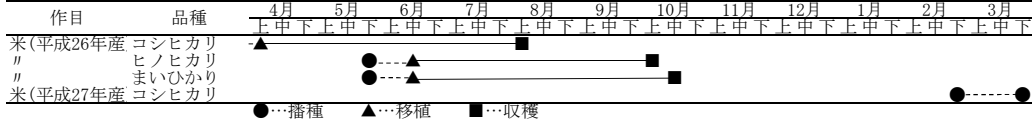
平成26年産の早期水稲の栽培は、西水田6圃場174.9aで行った。本年は九州の西側に接近した台風12号の吹き返しを受けた後、12号より遅れて九州の東側を通過し宮崎に接近した11号の影響を受け、全圃場倒伏、排水不良のため浸水し収穫困難となり前年比-177.4減の玄米収量235.5kg/10aであった。なお、平成27年度産コシヒカリの移植を宮崎大学では初めて3月に行った。

普通期水稲（ヒノヒカリ、まいひかり）

普通期水稲の栽培は東水田で行った。本年度はヒノヒカリを通常6圃場141.3aにて栽培しているが18.2aを試験米栽培区に使用することとなったが、それまで遊休地としていた10aを使用し、小学生を対象とした公開講座「稲作を体験してみよう」を開催することにより133.1aの栽培面積を確保し、更に25年度から行った種籾の温湯殺菌も適切に行え、種籾の損失を抑えることができ、玄米収量前年比21.3増の269.4kg/10aの収穫量を得た。

まいひかりは、前年度ヒノヒカリ区の種籾量不足もありヒノヒカリを減反した箇所に栽培した経緯があり、本年度は通常通りの栽培面積134.9a7での栽培となった。まいひかり区は2圃場にて稲こじ病が多発しており減収に繋がったのでは無いかと考えられ、玄米収量前年比-25.8減の356.0kg/10aであった。なお、稲こじ病が発生し着色米となった玄米については廃棄処分を行った。

第1表：栽培歴（平成26年度）



第2表：栽培面積および玄米収量（平成26年度）

作目	品種	面積(a)	玄米収量(kg)	反当収量(kg/10a)	前年収	前年反	対前年比
米(平成26年産)	コシヒカリ	174.9	4,118	235.5	7,222	412.9	0.570
〃	ヒノヒカリ	133.1	3,585	269.4	2,479	248.1	1.086
〃	まいひかり	134.9	4,802	356.0	5,845	381.8	0.932

第3表：病害虫防除歴（平成26年度）

品種	散布日	対象病害虫
コシヒカリ(平成26年産)		
	4月15日	スクミノン
	4月22日	サラブレットR Xフロアブル
	7月2日	スタークル豆つぶ
	7月15日	ビームエイトスタークルゾル
まいひかり(平成26年産)		
	5月19日	温湯消毒
	5月21日	育苗：ダコニール1000
	5月27日	育苗：タチガレエースM液剤
	5月29日	石灰窒素粒状ペルカ
	6月13日	スクミノン
	6月19日	スクミノン
	7月3日	サラブレットR Xフロアブル
	8月20日	オリブライト粒剤250g
	9月8日	スタークル豆つぶ
	9月25日	ビームエイトスタークルゾル
ヒノヒカリ(平成26年産)		
	5月25日	温湯消毒
	5月28日	育苗：ダコニール1000
	5月29日	石灰窒素粒状ペルカ
	6月3日	育苗：タチガレエースM液剤
	6月23日	スクミノン
	7月1日	スクミノン
	7月14日	サラブレットR Xフロアブル
	9月8日	ルーチン粒剤
	9月8日	スタークル豆つぶ
	8月22日	イモチミン粒剤
	9月25日	ビームエイトスタークルゾル
コシヒカリ(平成27年産)		
	2月14日	温湯消毒
	3月6日	育苗：ダコニール1000
	3月13日	育苗：タチガレエースM液剤
	3月13日	石灰窒素粒状ペルカ

第4表：施肥量（平成26年産）

圃場名	品種	基肥施肥量(kg/10a)		
		N	P	K
西1号水田	コシヒカリ	40.5	9.5	8.8
西2号水田	コシヒカリ	32.8	9.6	8.9
西3号水田	コシヒカリ	32.8	9.6	8.9
西4号水田	コシヒカリ	30.8	9.6	8.9
西5号水田	コシヒカリ	26.8	9.4	8.7
西6号水田	コシヒカリ	27.0	9.6	8.9
東1号水田	ヒノヒカリ	24.0	9.6	8.9
東2号水田	ヒノヒカリ	25.4	10.0	9.3
東3号水田	ヒノヒカリ	27.2	9.9	9.1
東5号水田	ヒノヒカリ	17.4	9.8	9.1
東7号水田	まいひかり	28.9	9.6	8.9
東8号水田	まいひかり	33.0	9.8	9.1
東9号水田	ヒノヒカリ	33.1	9.9	9.2
東10号水田	ヒノヒカリ	33.0	9.8	9.1
東11号水田	まいひかり	24.7	10.2	9.5
東12号水田	まいひかり	33.1	9.9	9.2
東13号水田	まいひかり	32.9	9.7	9.0

(窒素分に石灰窒素分を加算)

第2表. 作物別栽培歴

作物名	栽培面積(a)	収穫量(kg)	kg/10a
スイートコーン	28	1205	430.36
ブロッコリー	20	936	468.00
キャベツ	10	348	348.00
ハクサイ	8	2869	3586.25
ニンジン	3	397	1323.33
ダイコン	1	214	2140.00
カブ	2	144	720.00

第3表. 施肥概要

作物名	元肥 (kg/10a)			追肥 (kg/10a)			全施肥量 (kg/10a)		
	N	P	K	N	P	K	N	P	K
スイートコーン	30.1	30.6	26.9	5.6	0.0	6.8	35.7	30.6	33.7
ブロッコリー	19.8	23.2	22.6	8.4	1.2	10.2	28.2	24.4	32.8
キャベツ	19.8	23.2	15.8	8.4	1.2	10.2	28.2	24.4	26.0
ハクサイ	19.8	23.2	15.8	5.6	0.8	6.8	25.4	24.0	22.6
ニンジン	6.2	4.0	6.3	4.2	0.6	5.1	10.4	4.6	11.4
ダイコン	3.4	3.6	6.3	4.2	0.6	5.1	7.6	4.2	11.4
カブ	3.4	3.6	2.9	4.2	0.6	5.1	7.6	4.2	8.0
レタス	3.4	3.6	2.9	0.0	0.0	0.0	3.4	3.6	2.9

第4表. 病害虫防除歴

作物名	散布日	使用薬剤	対象病害虫	
スイートコーン	3月11日	石灰窒素	雑草防除	
	3月17日	石灰窒素	雑草防除	
	3月27日	石灰窒素	雑草防除	
	3月25日	ダイアジノン粒剤	ネキリムシ類	
	3月27日	ダイアジノン粒剤	ネキリムシ類	
	4月1日	ダイアジノン粒剤	ネキリムシ類	
	4月15日	ダイアジノン粒剤	ネキリムシ類	
	4月17日	ダイアジノン粒剤	ネキリムシ類	
	5月30日	スミチオン乳剤	アワノメイガ	
	6月3日	ダイアジノン粒剤	アワノメイガ	
	6月7日	カスケード乳剤	アワノメイガ	
	6月12日	フェニックス顆粒水和剤	アワノメイガ	
	6月24日	プレバソンフロアブル5	アワノメイガ	
	ブロッコリー	8月25日	プレバソンフロアブル5	ヨトウムシ・オオタバコガ
		9月3日	ジュリボフロアブル	ヨトウムシ・オオタバコガ
9月17日		エルサン乳剤	アオムシ	
10月2日		ジュリボフロアブル	アブラムシ類・ヨトウムシ	
11月23日		アディオソ乳剤	アオムシ	
キャベツ	9月4日	エルサン乳剤	アオムシ	
	9月10日	プレバソンフロアブル5	ヨトウムシ	
ハクサイ	9月29日	エルサン乳剤	アオムシ	
	10月2日	ジュリボフロアブル	アブラムシ類・ヨトウムシ	
	11月23日	アディオソ乳剤	アオムシ	
	12月27日	うららDF	アブラムシ類	
ニンジン	9月29日	ポルトフロアブル	イネ科雑草	
ダイコン	9月10日	ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ	
	9月17日	ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ	
	9月29日	エルサン乳剤	アオムシ	
カブ	9月29日	エルサン乳剤	アオムシ	

レタス

9月28日
10月3日
10月12日

オルトラン水和剤
ジュリボフロアブル
アファーム乳剤

ヨトウムシ・オオタバコガ
アブラムシ類・ヨトウムシ
ハモグリバエ・ハスモンヨトウ

平成26年度 春作

--

ハウス群

--	--	--

ハウス

ミカン園

	スイートコーン		
④-1	④-2	④-3	④-4

--

平成26年度 秋作

--

ハウス群

--	--	--

ハウス

ミカン園

			カブ	ダイコン	ニンジン
	ブロッコリー	キャベツ	ブロッコリー	ハクサイ	
	⑨-1	⑨-2	⑨-3	⑨-4	

--

施設野菜係

福重 博貴

平成26年度の各作物の栽培暦を第1表に示し、栽培面積と収穫量を第2表に示した。また、各作物の施肥概要を第3表に、病虫害防除暦を第4表に示した。

【トマト①】

A・Dハウス（面積：266m²）にて作型はハウス抑制栽培で、品種は黄化葉巻病に耐病性を持つ「桃太郎ピース」を用いて栽培を行った。

播種は7月18日に行い、育苗には15cm鉢を用いた。土壌診断の結果を参考に施肥設計を行い、9月1日に定植を行った（畝幅：190cm・条間60cm・株間：40cm）。例年、この作型では黄化葉巻病に感染した株がいくつか確認されるが、今年度は耐病性品種の利用とコナジラミの徹底した防除により、感染した株は見られなかった。収量・可販果率は昨年とほぼ同等であったが、収穫期前半の平均糖度が5.5と低かったため、来年度は食味についても改善していきたい。

【ミニトマト】

Aハウス（面積：134m²）にて作型はハウス抑制栽培で、品種は「CF千果」を用いて栽培を行った。

播種は8月9日に行い、育苗には15cm鉢を用いた。土壌診断の結果を参考に施肥設計を行い、9月16日に定植を行った（畝幅：190cm・条間60cm・株間：40cm）。トマト①同様、徹底した防除により黄化葉巻病の感染を抑えることができた。10a当たり収量は前年比で164%であり、可販果率も89.4%と高く保つことができた。また、宮崎大学フィールドセンター開故事業の『収穫体験プログラム』に向け、露地でも試験的に栽培を行ってみたが、10月5日の台風によりほとんどの株が折れてしまい、収穫することはできなかった。

【きゅうり】

Cハウス（面積：200m²）にて作型はハウス抑制栽培で、品種は「グリーンラックス」、台木に「ゆうゆう一輝（黒）」を用いて栽培を行った。また、昨年に続き今年度も独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センターで試作されたエアアシスト式静電防除ロボットの防除効果試験を同ハウスにて行った。

播種は9月3日に行い、育苗には12cm鉢を用いた。土壌診断の結果を参考に施肥設計を行い、9月24日に定植を行った（畝幅：190cm・条間60cm・株間：80cm）。今年度は予防的に殺菌剤を散布できたこともあり、病害の発生を低く抑えることができた。しかし、試験区として同ハウス内に設けていた農薬無散布区ではうどんこ病や灰色かび病が激発していたため、次作のトマトへの影響等も考え例年よりも早めに栽培を切り上げることにした。それでも収量・可販果率は昨年とほぼ同等程度に保つことができた。

【中玉トマト】

GAPハウス（面積：200m²）にて作型はハウス促成栽培で、品種は「ルイ60」の用いて栽培を行った。

播種は9月5日に行い、育苗には15cm鉢を用いた。土壌診断の結果を参考に施肥設計を行い、10月24日に定植を行った（畝幅：190cm・条間60cm・株間：40cm）。1月上旬ごろから疫病の発生が多く見られ、また果実も空洞果率が高く、来年度に向けて改善しなければならない点が多い栽培となった。

【トマト②】

きゅうり栽培後、Cハウス（面積：200m²）にて作型はハウス半促成栽培で、品種は「CF桃太郎ファイト」を用いて栽培を行った。

播種は10月14日に行い、育苗には15cm鉢を用いた。土壌診断の結果を参考に施肥設計を行い、12月9日に定植を行った（畝幅：190cm・条間60cm・株間：40cm）。冬春トマトは高品質の果実を生産しやすいため、高糖度の果実を生産することを今作の目的とした。生育初期から強い水ストレスを与えたため、樹勢はかなり弱めで推移し、主枝の摘芯まで例年より30日以上多く日数を要した。また、果実は小玉果し平均100g程度となったため、収量だけで見れば前年比で44%と大きく減収となったが、糖度12度のもも見られたことで平均糖度は10度近くとなり、例年よりも大きく上昇した。しかし4月下旬ごろになり気温が高くなると、糖度は減少し、障害果の発生も増えて可販果率が低下した。来年度もこの作型では高糖度トマトの栽培に挑戦し、安定的に生産できるよう改善を続けていきたい。

【なす】

GAPハウス（面積：200m²）にて作型はハウス半促成栽培で、品種は「筑陽」、台木に「赤虎」を用いて栽培を行った。※GAPハウスは（西）と（東）で二棟に分かれた構造をしており、それぞれの面積は100m²である。GAPハウスでの栽培管理・収穫調製作業は主に「農場実習I・II」の授業で行い、学生に対するGAP教育を目的としており、服装から作業手順などGAPに即した内容で実習を行った。

播種は1月23日に行い、育苗には15cm鉢を用いた。土壌診断の結果を参考に施肥設計を行い、4月14日に定植を行った（畝幅：190cm・株間：50cm）。学生が中心となって管理するため、より整枝が分かりやすい2本仕立て栽培とした。病害虫防除に関してはGAPハウス（西）はバンカープランツと土着天敵（タバコカスミカメ等）、選択性農薬を利用して行い、（東）は比較のため慣行とした。天敵区では放飼のタイミングが遅れたことでなかなか害虫を抑えきれず、アザミウマが多く発生し、慣行区ではアザミウマは少なかったがコナジラミが多く発生した。害虫密度が高く推移した割には被害果はそれほど多くなく、可販果率も74.3%に留めることができた。来年度は実習日程の見直しを行い、より適切な時期に管理作業を行えるようにし、より充実した教育内容となるよう改善していきたい。

第4表 病害虫防除暦

作物名	散布日	使用薬剤	対象病害虫
トマト	8月11日	ウララDF	コナジラミ類
		ダコニール1000	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
	8月25日	ダコニール1000	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
	8月29日	ベストガード粒剤	コナジラミ類
	9月8日	マッチ乳剤	コナジラミ類
		ボトピカ水和剤	灰色かび病, うどんこ病
	9月18日	アフーム乳剤	オオタバコガ
		ボトキラー水和剤	灰色かび病, うどんこ病
	10月1日	モスピラン水溶剤	コナジラミ類
		アフェットフロアブル	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
	10月11日	ハチハチ乳剤	コナジラミ類
		フルピカフロアブル	灰色かび病
	10月21日	サンマイルフロアブル	コナジラミ類
		ボトキラー水和剤	灰色かび病, うどんこ病
	11月11日	コロマイル乳剤	コナジラミ類
		アフェットフロアブル	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
12月13日	ベストガード水溶剤	コナジラミ類	
	トップジンM水和剤	葉かび病, 灰色かび病	
1月16日	サンマイルフロアブル	コナジラミ類	
ミニトマト①	8月25日	ウララDF	コナジラミ類
		ダコニール1000	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
	9月10日	ダコニール1000	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
	9月13日	ベストガード粒剤	コナジラミ類
	9月18日	アフーム乳剤	オオタバコガ
		ボトキラー水和剤	灰色かび病, うどんこ病
	10月1日	モスピラン水溶剤	コナジラミ類
		アフェットフロアブル	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
	10月11日	ハチハチ乳剤	コナジラミ類
		フルピカフロアブル	灰色かび病
	10月21日	サンマイルフロアブル	コナジラミ類
		ボトキラー水和剤	灰色かび病, うどんこ病
	11月11日	コロマイル乳剤	コナジラミ類
		アフェットフロアブル	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
	12月13日	ベストガード水溶剤	コナジラミ類
		トップジンM水和剤	葉かび病, 灰色かび病
1月16日	サンマイルフロアブル	コナジラミ類	
ミニトマト②	8月25日	ウララDF	コナジラミ類
		ダコニール1000	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
	9月10日	ダコニール1000	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
	9月13日	ベストガード粒剤	コナジラミ類
	9月17日	ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ
	10月1日	モスピラン水溶剤	コナジラミ類
		アフェットフロアブル	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
	きゅうり	9月10日	ダコニール1000
9月22日		ダコニール1000	灰色かび病, うどんこ病
9月23日		ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ
9月24日		ベストガード粒剤	コナジラミ類
10月1日		アフーム乳剤	ウリノメイガ
		ダコニール1000	灰色かび病, うどんこ病
10月11日		ハチハチ乳剤	コナジラミ類
		ダコニール1000	灰色かび病, うどんこ病
10月22日		アフーム乳剤	ウリノメイガ

		アフエットフロアブル	灰色かび病, うどんこ病
10月28日		ベストガード水溶剤	コナジラミ類
		フルピカフロアブル	灰色かび病, うどんこ病
11月18日		ルビゲン水和剤	うどんこ病
		ダコニール1000	灰色かび病, うどんこ病

中玉トマト	9月22日	ダコニール1000	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
	10月16日	マッチ乳剤	コナジラミ類
	10月17日	ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ
	10月24日	ベストガード粒剤	コナジラミ類
	11月11日	コロマイト乳剤	コナジラミ類
		アフエットフロアブル	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
	12月2日	フルピカフロアブル	灰色かび病
		ボトピカ水和剤	灰色かび病
	12月26日	フェニックス顆粒水溶剤	オオタバコガ
		ライメイフロアブル	疫病
	1月10日	プレバソフロアブル	オオタバコガ
		ジャストフィットフロアブル	疫病
	1月24日	ジャストフィットフロアブル	疫病
	2月20日	バスタ液剤	一年生雑草

トマト②	11月11日	ダコニール1000	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
	12月2日	ダコニール1000	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
	12月5日	ガードホープ液剤	ネコブセンチュウ
	12月9日	ベストガード粒剤	コナジラミ類
	12月29日	ダコニール1000	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
	1月24日	ダコニール1000	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
	2月13日	ベストガード水溶剤	コナジラミ類
		アフエットフロアブル	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
	2月20日	バスタ液剤	一年生雑草
	3月10日	カリグリーン水溶剤	灰色かび病, うどんこ病
		ボトキラー水和剤	灰色かび病, うどんこ病
	3月26日	ベストガード水溶剤	コナジラミ類
		アフエットフロアブル	葉かび病, 灰色かび病, うどんこ病
5月14日	ハチハチ乳剤	コナジラミ類	

なす GAPハウス (西)	3月8日	ダコニール1000	灰色かび病, うどんこ病
	3月21日	ダコニール1000	灰色かび病, うどんこ病
	4月2日	ダコニール1000	灰色かび病, うどんこ病
	4月6日	ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ
	4月14日	コロマイト乳剤	コナジラミ類・チャノホコリダニ
		ダコニール1000	灰色かび病, うどんこ病
	4月30日	エスマルクDF	オオタバコガ
		ボトキラー水和剤	灰色かび病, うどんこ病
	5月9日	ボトキラー水和剤	灰色かび病, うどんこ病
	5月21日	ボトキラー水和剤	灰色かび病, うどんこ病
	6月4日	プレオフロアブル	ミナミキイロアザミウマ
		ボトキラー水和剤	灰色かび病, うどんこ病
	6月12日	ウララDF	アブラムシ類
		トップジンM水和剤	黒枯病, 灰色かび病
	6月20日	アブロード水和剤	チャノホコリダニ
	7月7日	スターマイトフロアブル	チャノホコリダニ
		トップジンM水和剤	黒枯病, 灰色かび病
7月18日	アニキ乳剤	コナジラミ類	

なす GAPハウス（東）	3月8日	ダコニール1000	灰色かび病, うどんこ病
	3月21日	ダコニール1000	灰色かび病, うどんこ病
	4月2日	ダコニール1000	灰色かび病, うどんこ病
	4月6日	ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ
	4月14日	コロマイト乳剤	コナジラミ類・チャノホコリダニ
		ダコニール1000	灰色かび病, うどんこ病
	4月30日	エスマルクDF	オオタバコガ
		ボトキラー水和剤	灰色かび病, うどんこ病
	5月9日	アフーム乳剤	アザミウマ類
		ボトキラー水和剤	灰色かび病, うどんこ病
	5月21日	アクタラ顆粒水溶剤	テトウムシダマシ類, コナジラミ類
		ボトキラー水和剤	灰色かび病, うどんこ病
	6月4日	ハチハチ乳剤	コナジラミ類
		ボトキラー水和剤	灰色かび病, うどんこ病
	6月12日	ウララDF	アブラムシ類
		トップジンM水和剤	黒枯病, 灰色かび病
	6月20日	アニキ乳剤	コナジラミ類
7月7日	モスピラン顆粒水溶剤	コナジラミ類	
	トップジンM水和剤	黒枯病, 灰色かび病	
7月18日	アニキ乳剤	コナジラミ類	

果樹係

甲斐 祐介

平成 26 年度は、以下の常緑果樹・落葉果樹を栽培し、各実習を行った。また 10 月 22 日に“JGAP/青果物 2010”の維持審査を受審した。審査において収穫調製作業を柿で行った。JGAP/青果物 2010 の認証取得を機に、科学的な視点から、安全・安心な農作物の生産と労働環境にも重きを置き、「農業技術検定」及び「フィールド実践実習」を柱とした生産のみに偏らない栽培体型・作業体型を作っていく必要があると考える。

圃場周りにはイノシシ・サルによる獣害対策として電機柵や防獣ネットを使用している。平成 26 年度は新たな電気柵の設置を行い、平成 26 年 12 月から平成 27 年 3 月にかけて、センサーカメラを設置し、サル・イノシシの侵入箇所と侵入方法の調査を行った。さらに平成 27 年 1 月 23 日、西脇教授によるセンサーカメラを用いた「野生動物対策実習」を行った。電気柵については設置方法等、課題は無数にあり、現対策の有効性と改善点の検証を行い、今後も継続してサル・イノシシ・カラスの鳥獣害対策を十分にする必要がある。しかし、電気柵・防獣ネットの整備に追われ、圃場内の草管理が十分でなかった。

カンキツ類は平成 25 年度に比べ、全体的に夏秋梢の発生が少なかった。これは冬季の剪定によるもので、それ程強い剪定を行わなかった為だと考えられる。病害虫防除において、カンキツ類全樹におけるゴマダラカミキリムシ防除に、微生物殺虫剤を使用している。

土壌診断を、11 号圃場で 1 サンプル・12 号圃場で 2 サンプル・15 号圃場で 1 サンプルを依頼し行った。

【温州みかん】 11 号圃場・13 号圃場

11 号圃場では‘興津早生’を栽培している。平成 26 年 4 月 24 日に直花の開花を確認し、平成 26 年 5 月 13 日に落弁期終了を確認した。幼木 72 本について平成 27 年 4 月 24 日に摘蕾・摘花を行った。またセンター開放にて収穫体験での収穫量を確保するために、若木については、夏期においても小さい果実も摘果を行わず、平成 26 年 10 月 7 日に肥大果実のみ摘果を行った。夏期には 11 号圃場南西の範囲にそうか病の害が多く見られた。防除は散布ムラの無いようハンドノズルでの散布を行った。若木の収穫はフィールドセンター開放事業において「収穫体験」という形で行い概算での収量は 262.0 kg であった。しかし、収穫予定していたもの全てがカラスの害に遭い、同量が収穫出来なかった。農場実習Ⅱ「果樹の耕種的防除」において、平成 25 年度に続きアカマルカイガラムシ除去にプラスチックの楊枝を使用した。13 号圃場では‘岩崎早生’を栽培している。平成 24 年度から改植を行っているが、平成 26 年度は新規での補植は無かった。全樹幼木のため、4 月 24 日にすべての樹において全摘蕾を行った。‘興津早生’‘岩崎早生’とも幼木においては、平成 27 年度までの間は確実に摘蕾・摘果を実施し、樹の維持に努めたい。

【カンキツ類】 12 号圃場

晩生柑類を栽培している。‘日向夏’は平成 26 年 4 月 19 日に直花の開花開始と、平成 26 年 5 月 1 日に有用花の開花開始を確認した。植物生産環境科学科の授業において交配実験に使用している。平成 26 年 8 月 21 日から 9 月 16 日にかけて袋掛けを行った。袋掛け期間のコナカイガラムシ・ハダニに対しての防除を平成 25 年度より一回多い三回の散布を行ったこともあり、平成 25 年度より一か月遅く袋掛けを行った。袋掛けを行った果実は、コナカイガラムシの侵入によるすす病等、平成 25 年度より遥かに少ない害で抑えることができた。防鳥用テグスを張っていても、平成 27 年 3 月の収穫間際のムクドリへの侵入を防ぐことが出来なかった。また、剪定期間中にイセリアカイガラムシの発生を確認した。‘ハッサク’・‘農間紅ハッサク’での病虫害ではアカマルカイガラムシ・ヤノネカイガラムシが見られ、また黒点病の発生が 10 果確認出来た。‘スイートスプリング’

は隔年結果の現れで全体の結果量が昨年の4.3倍増と多く、平成27年度も影響が懸念される結果となった。これは近年の強剪定の影響の現れで、平成27年度は摘果量で収量の調整を行いたい。また、有葉花・直花の着果数の調査を行ったが、着果量の差は見られなかった。糖度9.3から10.0Brix%と平成25年度より低い値となった。病虫害ではアカマルカイガラムシ・ヤノネカイガラムシを確認した。‘はるか’は平成26年5月2日に有葉花の開花を確認した。まだ若木であり、今後さらに収穫量の見込める品目である。

【柿】15号圃場

平成26年5月7日に刀根早生・平核無の10割、太秋5割、次郎0割の開花を確認した。渋柿（‘平核無’‘刀根早生’）の脱渋には保冷库を使用し、固形アルコールにて行っている。剪定を平成25年度より半月遅い、平成27年1月15日から平成27年2月21日にかけて行い、剪定枝をペレットの製造・燃焼の実験に供試している。病虫害ではフジコナカイガラムシ・カキノヘタムシが見られた。‘富有’の一部でロウムシも10個体程確認できた。鳥害対策では、平成25年度に引き続き、樹上頂部と樹間にテグスを張ることで、十分に防ぐことが出来た。昨年程では無いが、まだ収穫時期の果実の着色進行具合が遅いようにある。残留農薬分析を‘刀根早生’にて行った。

栽培概要

表1. 作物別栽培暦

作目及び作型	品 種	圃場	植栽面積 (a)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
温州みかん	興津早生	11号圃	50	☆	□○					☆	■	□				
晩生柑橘類	ハッサク55号	12号圃	2.4		□○	○	☆○	☆○		□☆	□		■		▽	
	農間紅ハッサク		2.4		□○	○	☆○	☆○		□☆	□		■		▽	
	日向夏（普通種）		10	□	○	□○	○	☆□	○□	○□	□☆	□		○		■
	日向夏（西内小夏）		10	□	○	□○	○	☆□	○□	○□	□☆	□		○		■
	スイートスプリング		13.5	○	□○	□○	○☆			☆□☆☆	□	■		■	■	▽
	はるか		2.1		□○	○	○			☆		□				■
	せとか		4.5		□○	○	○			☆						
	ネーブルオレンジ		(1樹)		□○	○	○	☆		☆		□				■
	レモン		(1樹)		□○	○	○					□				■
ユズ	(1樹)		□○	○	○					□						
温州みかん	岩崎早生	13号圃	21	☆	□○	○										
柿	西村早生	15号圃	0.6	○	○	○	□○	○	○	■				□		
	刀根早生		7	○	○	○	□○☆	○	○	■	■			▽□		
	平核無		9.6	○	○	○☆	□○☆	○	○		■	■		▽□		
	富 有		5.7	○	○	○	□○☆	○	○			■			□	
	次 郎		1.2	○	○	○	□○	○	○			■			□▽	
	太 秋		3.8	○	○	○	□○	○	○			■	■		□▽	

▲ 定植 ■ 収穫 □ 施肥 ▽ 剪定 ○ 葉散 ☆ 摘果

表2. 栽培面積・収穫量

作 目	栽培面積 (a)	収穫量 (kg)	(kg/10a)	栽植密度 (本/10a)	出荷・販売量 (kg)	秀品率 (%)
興津早生	50	304.5	(215.0)	50	262.0	86
日向夏 (普通種)	10	1073.2	(1073.2)	33	1055.0	62
日向夏 (西内小夏)	10	635.9	(635.9)	33		
スイートスプリング	8.4	2896.0	(3412.2)	33	2019.6	70
ハッサク55号	2.4	304.8	(1257.3)	33	197.0	65
農間紅ハッサク	2.4	685.1	(2824.8)	33	387.0	56
せとか	2.1	0.0	—	62	0.0	0
はるか	4.5	281.8	(620.4)	33	152.0	54
ネーブルオレンジ	1樹	14.4	(892.8)	62	4.5	31
レモン	1樹	15.7	(973.4)	62	5.2	33
刀根早生	7	230.1	(313.5)	15		
平核無	9.6	414.4	(414.4)	15	267.7	39
富有	5.7	47.9	(90.0)	15		

表3. 施肥概要

作 目	kg/10 a			備考
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
興津早生	7.2	2.7	1.4	若木
興津早生	2.5	1.0	0.5	幼木
はっさく	24.9	9.4	4.7	成木
日向夏 (普通種)	37.6	17.5	14.7	成木
日向夏 (西内小夏)	18.9	8.8	7.9	若木
スイートスプリング	22.4	8.4	4.2	成木
スイートスプリング	3.3	1.3	0.6	幼木
せとか	2.4	0.9	0.5	若木
はるか	7.5	2.8	3.4	若木
ネーブルオレンジ	11.5	4.3	2.2	若木
レモン	11.5	4.3	2.2	若木
岩崎早生	1.1	0.4	0.2	幼木
柿	17.2	24.0	10.1	成木

表4. 病虫害防除暦

圃場	作目	散布日	使用農薬	対象病害虫		
11号圃	興津早生	6月1日	バイオリサカミキリスリム	かきりん類		
		6月6日	モスピランSL液剤 ストロビードライフロアブル	アブラムシ類 アザミウマ類 カメムシ類 黒点病 そうか病		
12号圃	晩生柑橘類 (日向夏のみ) (日向夏のみ) (ハッサク・日向夏)	4月25日	デランフロアブル	黒点病 そうか病 炭疽病		
		5月29日	バイオリサカミキリスリム	かきりん類		
		6月8日	モスピランSL液剤 ストロビードライフロアブル	アブラムシ類 アザミウマ類 カメムシ類 黒点病 そうか病		
		6月24日	バイオリサカミキリスリム	かきりん類		
		7月25日	コロマイト水和剤 ペンコゼブ水和剤	ハダニ類 チャノホコリダニ ミカンシジラミ ミカンサビダニ 黒点病 ミカンサビダニ チャノキイロアザミウマ		
		8月12日	バロックフロアブル ペンコゼブ水和剤	シロハダニ ミカンサビダニ 黒点病 ミカンサビダニ チャノキイロアザミウマ		
		8月27日	スタークル顆粒水溶剤 ペンコゼブ水和剤	コカイガラムシ類 アブラムシ類 ヤノネカイガラムシ 黒点病 ミカンサビダニ チャノキイロアザミウマ		
		12月23日	マデックEW	後期落果防止		
		13号圃	岩崎早生	6月1日	バイオリサカミキリスリム	かきりん類
				6月8日	モスピランSL液剤 ストロビードライフロアブル	アブラムシ類 アザミウマ類 カメムシ類 黒点病 そうか病
15号圃	柿	4月15日	アプロード水和剤 デランフロアブル	カイガラムシ類幼虫 炭疽病 落葉病		
		5月9日	アプロード水和剤 デランフロアブル	カイガラムシ類幼虫 炭疽病 落葉病		
		5月29日	モスピラン顆粒水溶剤 ストロビードライフロアブル	カイガラムシ類 けいへつみか ⁶ カメムシ類 うどんこ病 炭疽病 灰色カビ病 落葉病		
		7月7日	バシレックス水和剤 ペンコゼブ	イガ類 けいへつみか ⁶ 炭疽病 落葉病		
		8月17日	アクタラ顆粒水溶剤 ビオネクト	カメムシ類 アザミウマ類 炭疽病 落葉病 うどんこ病		
		9月2日	スタークル顆粒水溶剤 スコア顆粒水溶剤	カメムシ類 コカイガラムシ類 けいへつみか ⁶ うどんこ病 炭疽病 落葉病		
		3月13日	ハーベストオイル	コカイガラムシ類		

表5. フィールド実践実習

月 日	実習内容	時間 (h)	人数 (名)
4月14日	カラタチ播種	2	1
4月23日	日向夏剪定	1.5	1
4月24日	温州みかん摘花・摘蕾	2.5	1
4月28日	カラタチ鉢上げ	2.5	1
5月9日	柿薬剤散布	3.5	1
5月17日	果樹園下草刈り	3	1
5月20日	工具使用	2.5	1
5月27日	晩柑類施肥	2.5	1
6月5日	柿摘果	3.5	1
6月8日	晩柑類薬剤散布	2	1
7月7日	柿薬剤散布	3	1
7月10日	電気柵整備	3.5	1
7月22日	日向夏・スイートスプリング摘果	2	2
10月23日	果樹園下草刈り	3	1
10月27日	柿調製・カラタチ採果	4.5	1
10月30日	柿調製	1.5	1
11月18日	日向夏・八朔施肥	4	1
11月28日	果樹園下草刈り	3	2
12月7日	スイートスプリング収穫・選果	6	1
12月8日	スイートスプリング選果	3	1
12月9日	温州みかん施肥	3.5	1
12月11日	スイートスプリング調製	5.5	2
12月12日	レタス収穫調製	3	2
12月26日	防獣ネット整備	3	1
1月20日	柿剪定	2.5	1
1月22日	柿剪定	1.5	1
2月2日	はるか・ネーブルオレンジ・レモン収穫選果	3	1
2月3日	剪定枝粉碎	4	1
2月10日	スイートスプリング剪定	3	1
2月25日	ハッカ剪定・カラタチ種子選別	4.5	1
計		92.5	34

2 住吉フィールド（牧場）

家畜部（宇田津・邊見・鶴原（兼任）・山下）

月別家畜頭数

平成26年度の家畜飼養頭数を表1に示した。平均飼養頭数は181.8頭（前年度185.4頭）と約4頭減少した。
月平均で乳用牛は約31.8頭（前年度30.6頭）と1.2頭増加した。肉用牛は約150.1頭（前年度154.8頭）と約4.7頭の減少だった。

第1表 家畜月別飼養頭数（平成26年度）

畜種	性別	区分	H26										H27		
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
乳用牛	ホルスタイン種 （繁殖用）	雌 成	23	23	21	21	21	21	20	20	21	21	22	20	
		雌 育	8	9	9	9	11	12	11	12	11	11	11	13	
肉用牛	ホルスタイン種 （肥育用）	去 成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		去 育	1	0	0	1	2	2	0	0	0	2	1	0	
	F ₁ 種 （肥育用）	雌 成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		去 成	1	1	2	1	1	1	1	2	2	1	2	1	
黒毛和種 （繁殖用）	雌 成	去 成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		去 育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	雌 成	去 成	50	50	50	50	52	51	51	51	51	52	53	53	
		去 育	17	17	18	18	16	16	16	16	16	15	14	15	
雌 成	去 成	8	6	5	7	7	4	5	5	3	4	5	5		
	去 育	23	24	24	22	23	25	25	26	26	24	26	28		
黒毛和種 （肥育用）	去 成	去 成	6	8	6	9	11	14	13	12	11	10	8	5	
		去 育	44	43	45	44	39	39	39	39	38	40	42	43	
牛 計			181	181	180	182	183	185	181	183	179	180	184	183	
めん羊	日本コリデール雑種		0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	

粗飼料給与状況

平成26年度の粗飼料給与状況を表2に示した。

第2表 粗飼料給与状況（平成26年度）

区分	草種	前年度繰越(kg)	生産量(kg)	使用期間	使用量(kg)	残量(kg)
サイレージ	トウモロコシ	83,945	152,345	H25.4.1～6.15, 11.11～H26.3.31	183,850	52,440
へいレージ	イタリアンライグラス	0	14,776	H25.4.1～H25.12.15	14,776	0
	エンバク	0	144,922	H25.4.5～H26.3.31	63,222	81,700
	ギニアグラス	0	21,698	H25.9.6～H26.3.31	13,361	8,337
	ローズグラス	0	2,028	H25.9.6～H26.3.9	2,028	0
	スーダングラス	399	18,520	H25.4.1～H26.3.31	15,831	3,088
乾草	イタリアンライグラス	771	13,856	H25.4.1～H25.12.15	14,627	0
	ライムギ	0	12,095	H25.4.16～H25.9.17	12,095	0
	エンバク	0	35,256	H25.4.11～H26.3.6	35,256	0
	ローズグラス	19,361	47,026	H25.4.1～H26.3.31	36,462	29,925
	ギニアグラス	20,320	14,146	H25.4.1～H26.3.31	33,401	1,065
放牧	バヒアグラス	0	400,000	H24.5.1～10.31	400,000	0
	センチピードグラス	0	40,000	H24.5.1～10.31	40,000	0
	ネビアグラス	0	700,000	H24.5.1～10.31	700,000	0

肉用牛の出荷状況

平成26年度の肉用牛の出荷状況を表3に示した。出荷頭数の総計は56頭であり、昨年度より7頭、一昨年から17頭減少したが、これは濃厚飼料価格高騰の影響により、一昨年度から計画的に飼養頭数を減少させたためである。枝肉出荷が41頭（うち黒毛老廃牛2頭、ホルス老廃牛5頭）、生体の出荷が15頭であった。通常肥育の黒毛和種枝肉出荷頭数は34頭、上物率は77%、平均枝肉重量は463kgであり、昨年度の結果（上物率61%、平均枝肉重量444kg）より大幅に改善された。相場が持ち直したことで肥育成績が良かったことから枝肉単価は1,949円/kg（昨年度1,684円/kg）、販売価格939千円（昨年度795千円）と改善された。通常肥育出荷の売上のみで3,193万円となり、平成26年度は出荷頭数の減少を枝肉価格の上昇により補う形となった。

表3. 肉用牛出荷成績（平成26年度）

区分	品種	性別	頭数	出荷時体重(kg)	出荷時日齢(日)	一日増体量(kg/日)	販売価格(円/頭)	生体単価(円/kg)	枝肉単価(円/kg)	
枝肉（肥育）	黒毛和種	去	21	726	877	0.80	981,415	1,361	1,918	
		雌	13	686	916	0.72	871,102	1,296	1,823	
	黒毛（老廃）	雌	2	396	5,773	-	38,799	98	215	
		ホル（老廃）	雌	5	-	2,495	-	125,812	-	382
生体	老牛	黒毛和種	雌	1	535	5,321	-	382,468	715	-
		若牛	黒毛和種	雌	1	396	708	-	805,720	2,035
	仔牛	黒毛和種	去	1	341	279	1.08	627,754	1,841	-
		雌	2	263	318	0.73	422,986	1,608	-	
	ぬれ仔	F1	雄	1	56	28	0.40	92,051	1,644	-
			雌	2	66	45	0.59	125,560	1,902	-
ホル		雄	6	75	49	0.56	43,648	624	-	
	雌	1	84	71	0.68	9,074	64	-		

繁殖成績

平成26年の繁殖成績（受胎頭数/実頭数）を表4に、毎月の授精頭数ならびに受胎頭数について表5に示した。黒毛和種の受胎率（50/58頭）は86.2%で前年度の80.7%に比べ5.5%上昇した。これは平成24年度にES細胞製造を目的とした採卵用の種付けがあったため、平成24年度の受胎率が低かったものと思われる。ホルスタイン種の受胎率（17/21頭）は81.0%で前年度と同じであった。なお、26年に受胎した黒毛和種50頭、ホルスタイン種17頭の受胎までの授精回数は両方とも1.5回であった。

月別の授精延べ頭数に対する受胎頭数を受胎率としてみると、黒毛和種では前年度とは異なり9月が最も高く100.0%、一方で前年度と同じく12月が最も低く0.0%であった。また、放牧期間中（5-10月）の受胎率は47.9%で放牧期間中以外（11-4月）は50.9%であり、ほぼ同じであった。ホルスタイン種では前年度とは異なり、2、4、6、8、9、11月が50%以上で高く、それ以外の月は5、10、12が約20～25%、1、3、7月が0%であった。

第4表 牛の繁殖成績（平成26年）

品種\項目	実頭数(頭)	延AI回数(回)	受胎までの平均AI回数	受胎頭数(頭)	受胎率(%) ¹⁾	初産月齢(月齢)
黒毛和種	58	101	1.5	50	86.2	28.9(6頭平均)
ホルスタイン種	25	42	1.7	21	87.5	24.8(5頭平均)

1) 成牛で販売した牛については妊娠が不明であるので、受胎率の計算は 受胎率=受胎頭数/(実頭数-販売頭数)×100で計算している。

第5表 月別授精頭数及び受胎頭数（平成26年）

		H26												計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
黒毛和種	授精延頭数(頭)	10	9	9	9	8	3	11	11	2	13	12	4	101
	受胎頭数(頭)	5	2	5	8	4	2	4	5	2	6	7	0	50
	受胎率(%)	50.0	22.2	55.6	88.9	50.0	66.7	36.4	45.5	100.0	46.2	58.3	0.0	49.5
ホルスタイン種	授精延頭数(頭)	7	3	7	3	2	2	2	4	3	5	3	1	42
	受胎頭数(頭)	4	1	4	2	1	0	1	1	1	3	2	1	21
	受胎率(%)	57.1	33.3	57.1	66.7	50.0	0.0	50.0	25.0	33.3	60.0	66.7	100.0	50.0

注) 成牛で販売した牛については妊娠が不明なので、表からは除いてある。

疾病状況

平成26年度の疾病発生状況を表6に示した。腸炎(仔牛の下痢)は周年に渡り発生した。気管支炎の発生少なかった。平成26年度も空胎期間の短縮に取り組んだため繁殖障害治療数は比較的多かった。乳房炎は平年並み。その他の疾患として、分娩後の食欲不振が多く、外傷1件、死亡事故は肥育牛の突然死1件、仔牛の腸炎2件、起立不能牛の淘汰1件の計4件であった。

表6. 家畜疾病発生状況（平成26年度）

病名/年月	H26												H27		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
腸炎(下痢等)	3	4	2	1	0	5	0	1	4	2	1	4			
気管支炎	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0			
乳房炎	1	1	2	2	1	0	0	1	0	1	3	2			
繁殖障害	4	5	4	1	2	2	4	4	1	0	0	3			
その他	0	0	0	3	2	0	1	0	1	2	0	2			
斃死・死産	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0			
合計(頭数)	8	10	9	8	5	9	6	6	6	5	4	11			

圃場部(蔭東・本田・結方)

飼料作物、牧草の作付け状況および生産量

平成26年度の飼料作物、牧草の作付け結果および生産量を表7に、またその際の種子、肥料等の使用量を表8に示した。ただし冬作のイタリアンライグラス、エンバクについては平成26年10月に播種し、平成27年6月までの生産の結果である。

作付け草種は例年とほぼ同様であったが、これまでスーダングラスを作付していた圃場にギニアグラスを作付した。またここ数年同様、パヒアグラス放牧草地へイタリアンライグラスを簡易更新機により一部導入し、冬季から春先の放牧草の確保に努めた。作付け面積は例年とほぼ同様であった。また冬作のイタリアンライグラス採草圃場のほぼ全てにエンバクを混播した。乾物収量は乾草で前年度の約100%、ラップサイレージで89%、トウモロコシサイレージで137%となったが全体の乾物収量は約41万kgで、前年度の約105%となり、毎年緩やかな増収傾向例年通り、ギニアグラスの一部(3.0ha)は前年度までの自然下種を利用し、冬作との連年栽培を継続した。

表7. 平成26年度飼料作物、牧草の作付けおよび生産実績

利用方法	草種名	作付面積(ha)	現物収量(kg)	乾物収量(kg)	梱包数(個)	
					ロール	タイト
放牧	パヒアグラス	10.5	420,000	84,000		
	センチビードグラス	1.0	40,000	8,000		
	ネビアグラス	2.0	120,000	24,000		
	イタリアンライグラス(注1)	2.7	108,000	21,600		
	小計	16.2	688,000	137,600		
乾草	イタリアンライグラス(注1、2)	5.0	24,563	20,879	120	
	エンバク(注1、2)	—	9,114	7,747	31	
	ローズグラス	6.6	47,006	39,955	209	470
	ギニアグラス	4.5	16,940	14,399	48	820
	小計	16.1	97,623	82,980	408	1,290
ラップサイレー	イタリアンライグラス(注1、2)	9.0	68,103	27,241	109	
	エンバク(注1、2)	—	67,564	27,026	159	
	ローズグラス	—	11,418	5,138	33	
	ギニアグラス	—	39,857	15,943	138	
	小計	9.0	186,942	75,348	439	0
サイレージ	トウモロコシ	6.7	191,895	115,137		
合計	計	48.0	1,164,460	411,064	847	1,290

表8. 飼料畑および草地における種子・肥料の使用量

草種	種子(kg)	化成肥料(14-12-110) 20kg/袋	苦土石灰 20kg/袋	尿素 20kg/袋	自家堆肥(t)
トウモロコシ	145	150	264	56	120
ローズグラス	360	94	201	28	54
ギニアグラス	163	104	222	22	—
採草地イタリアンライグラス(エンバク混播)	422	170	150	60	96
パヒアグラス	—	132	231	17	—
放牧地イタリアンライグラス	100	45	—	12	—
センチビードグラス	—	9	12	17	—
合計	1885	704	1100	212	270

【加工部】(担当:野村憲司)

住吉フィールド(牧場)では、場内で生産した生乳を原料に、場内のミルクプラントで熱処理充填した牛乳(500mlパック)を「宮崎大学Milk」として、大学職員や宮崎大学生協、宮崎市内のスーパーなどに対して販売しており、余剰分の生乳は県経済連に出荷している。平成26年度は前年度と比較して、牛乳の出荷先が増えたこと、搾乳牛の頭数が増加したことなどから、生乳出荷量、乳処理量共に増加した。

平成26年度の乳処理量および生乳出荷量を第9表に示した。乳処理量は31,132kgと前年度より3,682kg増加した。生乳出荷量は52,752kgと前年度より4,731kg増加した。その結果、販売量は83,884kgと前年度より8,413kg増加した。

平成26年度の月別牛乳販売個数を第10表に示した。牛乳販売個数は49,876個で、前年度より2,297個増加した。

平成26年度に県経済連に出荷した生乳の成分検査結果並びに単価を第11表に示した。

第9表 乳処理量および生乳出荷量 (平成26年度)

年月	乳処理量(kg)	生乳出荷量(kg)	合計(kg)
H26.4	2,188	6,325	8,513
5	3,083	5,573	8,656
6	2,621	5,950	8,571
7	2,685	6,048	8,733
8	2,127	4,882	7,009
9	2,943	4,142	7,085
10	2,706	3,245	5,951
11	2,805	3,451	6,256
12	2,785	3,129	5,914
H27.1	2,305	2,675	4,980
2	2,229	2,991	5,220
3	2,655	4,341	6,996
合計	31,132	52,752	83,884

第10表 月別牛乳販売個数 (平成26年度)

年月	販売個数(個)
H26.4	4,036
5	4,841
6	3,931
7	4,437
8	4,033
9	4,582
10	4,496
11	3,817
12	4,438
H27.1	3,692
2	3,604
3	3,969
合計	49,876

第11表 出荷生乳検査結果 (平成26年度)

年月		乳脂率 (%)	タンパク質 (%)	SNF (%)	MUN (mg/dl)	体細胞数 (万/ml)	細菌数 (万/ml)	単価 (円/kg)
H26.4	上期	3.73	3.27	8.86	7.1	5	3	96.63
	下期	4.14	3.51	9.09	8.0	9	3	98.51
H26.5	上期	4.22	3.40	8.96	4.6	20	3	100.42
	下期	4.16	3.42	8.92	10.5	7	3	101.20
H26.6	上期	4.05	3.37	8.91	13.3	7	3	111.29
	下期	3.70	3.29	8.82	13.4	14	3	108.31
H26.7	上期	3.90	3.24	8.75	12.6	12	3	118.87
	下期	3.91	3.18	8.67	9.8	9	3	118.57
H26.8	上期	3.63	3.26	8.76	7.1	36	3	112.71
	下期	3.91	3.21	8.63	6.3	10	3	118.50
H26.9	上期	3.91	3.35	8.77	4.7	13	8	126.01
	下期	3.78	3.36	8.75	8.3	25	3	124.46
H26.10	上期	3.81	3.41	8.75	7.0	29	3	113.17
	下期	3.94	3.48	8.95	6.2	6	3	115.73
H26.11	上期	4.17	3.54	8.96	6.3	22	3	109.68
	下期	4.07	3.49	8.96	4.6	10	3	109.97
H26.12	上期	4.45	3.49	8.90	6.5	22	3	96.32
	下期	4.30	3.49	8.98	5.6	25	3	96.37
H27.1	上期	4.08	3.17	8.65	5.6	10	3	96.32
	下期	4.35	3.39	8.91	5.9	15	3	97.76
H27.2	上期	4.43	3.40	8.96	5.6	10	3	98.79
	下期	4.29	3.60	9.06	7.0	19	3	98.86
H27.3	上期	4.13	3.41	8.87	7.8	9	3	94.94
	下期	3.76	3.43	8.97	6.6	11	3	94.19

3 田野フィールド（演習林）（村本，黒木義，久保田）

第1表. 保育実績

項目	数量	場所
田野地区		
下刈り	7.2 ha	6に16, 7に2, へ3-4, 8う1, 13ろ13-15, 15と7-9, 15ち2-4
除伐・枝打ち	1.4 ha	13ろ23, へ6-8
保育間伐	2.2 ha	8あ, お, く, 13ろ4, ろ6, 15ろ3
地拵え・植栽	1.2 ha	7へ2
大納地区		
下刈り	0.3 ha	1へ1-2
除伐・つる切り	2 ha	1を, る, ち, よ, け, き

第2表. 林産物売払

地区名	産物区分	契約年月	生産数量	収入金額	生産数量：m3	金額・単価：円	場所
					売払先	立米単価	
田野地区	スギ材	H26.5	136.3	612,564	宮崎県森林組合連合会	4,493	13ち
田野地区	ヒノキ材	H26.7	172.6	1,113,266	宮崎県森林組合連合会	6,451	7に
田野地区	スギ材	H26.9	101.0	875,957	宮崎県森林組合連合会	8,674	8う2
田野地区	広葉樹用材	H26.9	9.8	112,985	宮崎県森林組合連合会	11,553	8う2
田野地区	ヒノキ材	H26.11	31.9	353,435	宮崎県森林組合連合会	11,073	7に1
田野地区	広葉樹用材	H26.11	7.6	72,813	宮崎県森林組合連合会	9,626	7に1
田野地区	広葉樹パルプ	H26.11	65.3	546,561	宮崎県森林組合連合会	8,370	7に1
田野地区	スギ材	H27.1	96.4	650,215	宮崎県森林組合連合会	6,744	18へ
田野地区	ヒノキ材	H27.1	2.3	22,449	宮崎県森林組合連合会	9,863	18へ
田野地区	スギ材	H27.2	241.0	1,527,243	宮崎県森林組合連合会	6,336	4い
田野地区	ヒノキ材	H27.2	0.7	2,599	宮崎県森林組合連合会	3,974	4い
田野地区	木工品他	H25.11・H25.12		140,200	フィールド開放（木花, 住吉）		
田野地区	乾燥椎茸	H25.4-H26.3	6.95kg	34,750	学内販売		
田野地区	生椎茸	H25.4-H26.3	171.9kg	131,276	学内販売		
田野地区	なめこ	H25.4-H26.3	3.4kg	2,788	学内販売		
合計				6,199,101			